

「群馬県支部会報」

発行
令和元年11月15日
公益社団法人 日本技術士会
群馬支部 広報委員会

報告

第8回見学会

群馬大学 研究・産学連携推進機構

「次世代モビリティ社会実装研究センター」



センター長 太田 直哉 様

このセンターは、次世代の移動手段を研究しています。

太田センター長の説明によると、

『社会実験を通して新しい交通システムの実証と社会への普及に力をいれている。具体的には、2020年に限定地域において、「レベル4」と呼ばれる完全自動運転車両の商用化を目指している。』とのこと。

あいにく自動運転車両は、貸出や準備の都合で乗ることはできませんでしたが、様々なタイプの車両(通常の乗用、トラック、バス、小型モビリティ等)をみることができました。

説明の中で最も印象に残ったことは、低速小型モビリティの実証実験です。

モビリティは交通手段としてのニーズだけでなく、コミュニティ形成にも寄与しているようで、「ご老人の井戸端会議がはじまった」とか、「おばあちゃんがお化粧をして出てくる」といったお話は興味深い結果でした。

スケジュール

令和元年10月18日(金)

14:00～14:50 コラボレーションルームにて、ご説明 センター長 太田 直哉 様

14:50～15:30 センター施設見学

2F 共同研究室 → サーバー室 → コラボレーションルーム

1F 管制室・遠隔操縦室 → シミュレーションルーム

→ 整備室・自動運転車両・実験路

15:30～15:35 休憩、移動

15:35～16:00 質疑応答・ディスカッション

現場の様様



■モビリティをみる



■施設内から外(実験路)をみる



■管制・遠隔運転室をみる



■シミュレーション室をみる

紹介

群馬大学荒牧キャンパス
次世代モビリティ社会実装研究センター

〒371-8510 群馬県前橋市荒牧町四丁目2番地

資料:「次世代モビリティ社会実装研究センターパンフレット」
※研究機関には、撮影等の制約があるため、パンフレットを掲載します。



編集後記

AI(人工知能)に関する書籍の中では、「ホモ・デウス」が有名かと思います。著者ユヴァル・ノア・ハラリが、この書籍を書こうと思った理由を次のように述べています。

「…自然淘汰と有機的進化の時代が終わり、人類が非有機的な生命体を創る時代が幕を開ける。…だが、自らの発明が世の中にどのような影響をもたらすかという倫理上の問題を理解できているとは限らない…」。

(週刊 東洋経済。2018年12月)

不安とか恐怖を感じるのは、単純に知らないことが理由になっていることがあります。したがって、新しい技術を用いて、より便利で豊かな社会を実現するためには、「ヒト」に着目し、わかりやすい表現や仕組み、そして倫理観が必要です。そのためには、工学だけでなく、医学、哲学や社会学等、様々な専門分野を複合的に捉えなければならぬ時代になったのだと痛感しています。

(広報委員長 小池)

群馬県支部会報 第14号

公益社団法人 日本技術士会
広報委員会